

# KYOTOsta.Stool

## ・設計趣旨

京都駅ビルの魅力は伝統的な美と歴史、異質を感じるモダンな空間、文化と商業の融合という三要素が見事に組み合わせられています。これにより、訪れる人々は歴史的な価値観と現代的な魅力を同時に楽しむことができます。私が提案する椅子のデザインは京都駅ビルの雰囲気や魅力を反映させ、空間のアイデンティティを増幅し、個から全体へ影響を与える事を目的とします。そして、京都駅ビルから発信する京都木産ツールとして商業展開を考える。

## ・概要

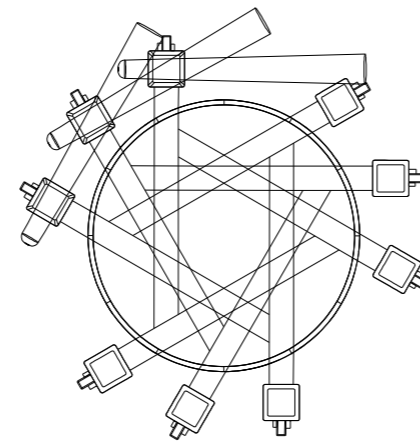
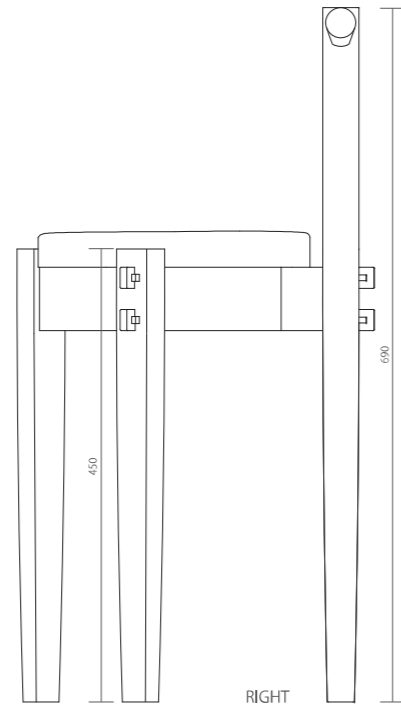
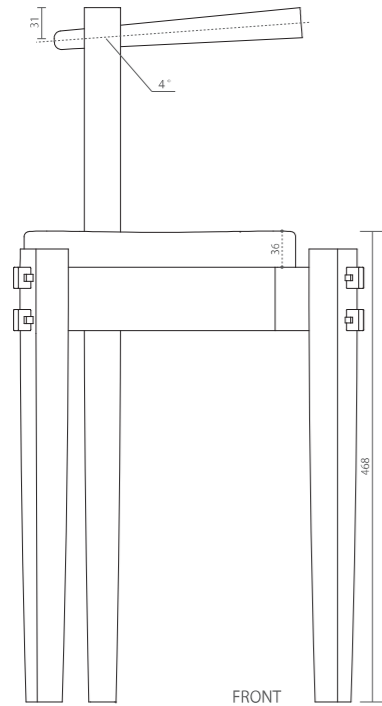
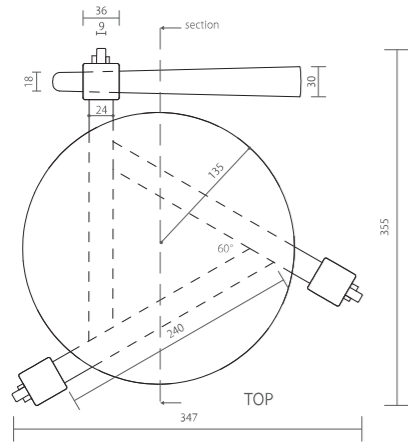
サイズ：W347mm × D355mm × H690mm 座面高：468mm

素材：ヒノキ

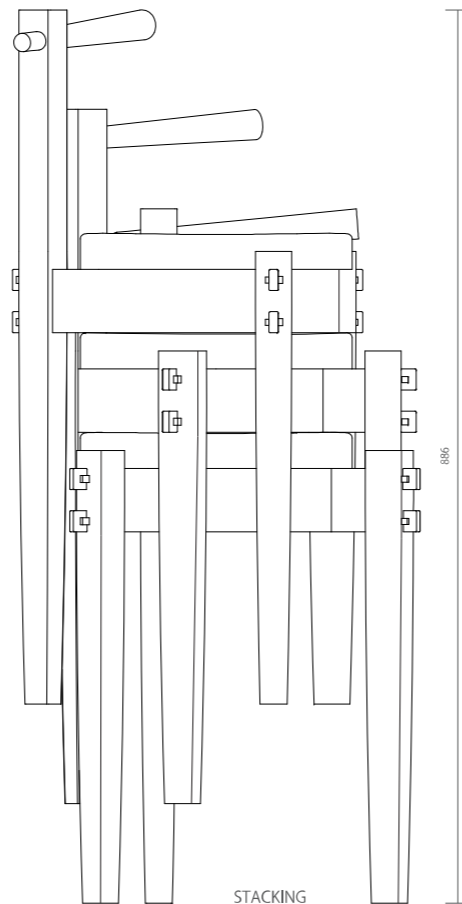
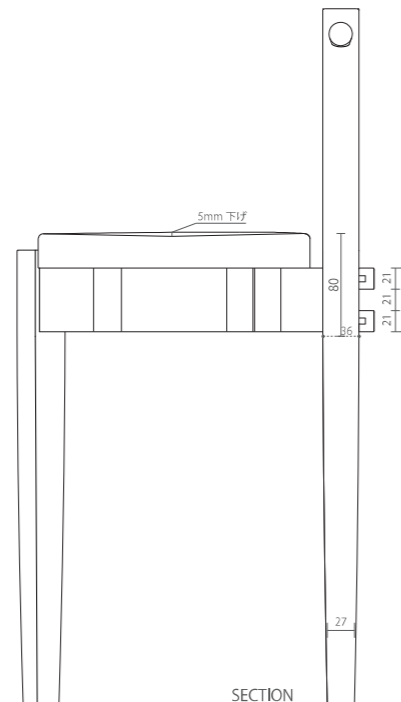
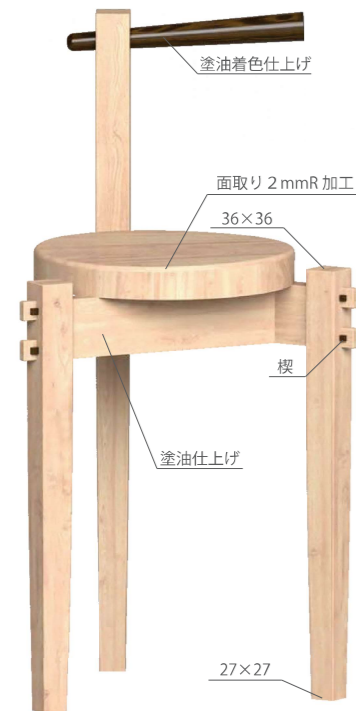
仕上げ：2000 番研磨、2mm 面取り

仕様：塗油仕上げ

図面：1/5 (mm)



スタッキングイメージ



## ・意匠設計

設計するにあたり、京都駅ビルの空間を調査しました。そして、空間構成する要素を「伝統」「異質」「モダン」と解釈し、それを以下にデザインしました。ヒノキの風合いを活かし社寺仏閣にみられる柱の力強さを脚に用い「伝統」を表現しました。そして、厚めに設計した座面は円の中心に向かい有機曲線を描くことでヒノキのぬくもりや質感を強く身体へ伝えます。ヒノキの幕板の三角構成は円との対比により、ダイナミックなバランスを生み出します。これにより安定感と軽快さを同時に表現し、視覚的にも空間的にも興味深いコントラストを与え「異質」な雰囲気を出すことができます。また、角柱に突き刺さった円錐は個性が際立つ様にカラーバリエーションを展開し視覚的アクセントを考えました。円錐、直線、曲線、が融合し独特の「異質」さから「モダン」へと魅力を発信することができます。この対話的なデザイン要素が、椅子をただの家具ではなく、個として、スタッキングする事で、アートピースとしても成り立ちます。座る、収納、だけでなく展示する事で広場の空間性がより一層豊かになります。



## ・機能設計

通しホソと楔の継ぎは、木材同士をしっかりと接合するために効果的な方法です。これにより、木材同士の結合が強化され、金属部品を使わなくても耐久性が向上します。また場所の特性上、使用者が不特定多数になる事から、使用頻度が多くなる、使い方が多岐にわたる、等が予想され劣化した際もメンテナンスや部材の付け替えなどに柔軟に対応できる様に考えました。この加工は古くから伝わる伝統的な技術でありながら、機能性とデザインを追求する現代の設計にも適用できます。また、突き刺さった円錐バーは、今までのスタッキングツールにはない試みを取り入れました。この特徴的なデザインは小物をかける、色ごとにワークショップのグループ分けに使用する、付け替えて色を統一する、外して穴にロープを通して仮設のブースを設営する等、人が使う椅子から空間の一部としても使用が可能です。伝統的な技術と新しい試みを併せ持つこのツールはまさにこれからの京都駅ビルにふさわしいと考えます。



## ・商業的促進計画

京都駅ビルみんなの広場空間に設ける事で、デザインの特長と快適さをワークショップやイベントへの活用で強調する。他に限定カラーバリエーションの提供、KYOTOsta.Stoolとして顧客の関心を引き、訴求力を高める。また、京都の工芸文化と連携し、地域性を強調したイベントや材料、コラボレーションを展開。新たな市場を開拓を試みる。

